大阪ごみを考える通信

NPO 法人 大阪 ごみを考える会 http://osaka-gomi.sakura.ne.jp/ 【連絡先】吹田市江坂町 4-23-7-309 水川方 TEL/FAX (06) 6338-3908 【郵町座】00960-9-251431

2023年度 NO. 5 2024.1.31

目次

1.2023 神崎川プラごみゼロアクション

前回は雨のため中止になったが、2023年11月23日(木・祝)は晴天に恵まれ、吹田市域の神崎川と江坂周辺のごみを拾って歩くイベントが開催できました。。今回は「川ごみ調査カード(制作:荒川クリーンエイド・フォーラム/監修:JEAN)」を使用、拾ったごみの種類を分け、個数を数えました。原田禎夫先生に解説をお願いし、集めたごみの収集を吹田市事業課に依頼したり、河川敷の所管の道路室維持管理課の協力も得られ、行政の各部署との連携ができたことが大きな成果でした。

2. 枚方市のごみ焼却炉選定の顛末(その3)

ごみ焼却炉をめぐる枚方市役所内部での不穏な動きの続編です。前回は、下水 道問題研究会(代表・森住明弘(当会理事長))が緊急質問状を出したりマス コミの騒ぎもあって、市議会では百条委員会も設置されたことに触れました。 今回はその結末がいかに!という報告です。

3. ボランティア活動での小さな気づき

高齢者向け配食サービス、震災ボランティア、牛乳パック回収運動、子ども食堂と様々なボランティア活動を通じて、阪野さんが感じてこられたことを地域の社協のセミナーでお話されましたので報告します。

4. 加藤さんのコラム "新年や ガザに詫びつつ 餅を喰う"

日本にいると平和を感じていても、遠いところでは戦争が続いています。不安 におののく日々を強いられる人がいて、戦争とは普通の人がたくさん死ぬの が常です。人間の叡智で、大きな戦争をせずに済んでいたのではないのでしょ うか?今こそ世界の平和を願わずにおれません。

2023 神崎川プラごみゼロアクション

すいた市民環境会議とアジェンダ 21 すいたの共催で 2023 年 11 月 23 日 (木・祝)「神崎川プラごみゼロアクション」が行われました。アジェンダ 21 すいたの一員として主催者の立場から報告をします。 総勢 41 名の参加で大阪メトロ江坂駅近くの江坂公園を起点に神崎川までの町なかのごみと、神崎川河川敷のごみを拾って比較しました。今回は、海洋プラスチック問題の専門の原田禎夫先生(同志社大学経済学部准教授、NPO 法人保津川代表理事)から、海外の先進事例なども話していただきました。

江坂から神崎川へ向かう途中の町中のごみ



自販機の周りはごみがたくさん

自販機横の回収 BOX は設置がないところも多いのですが、ここは既に満杯で、ペットボトルや缶以外のごみも無理にねじこんで捨てられて

いました。これらは側溝に落ち、川から海へ運ば れていきます。

道路のポイ捨ては、プラスチック容器だけではなく、タバコの吸い殻もたくさん見つかりました。 歩きタバコは禁止されているはずなのですが。

右の写真は前号(2023 年度 NO.4)で紹介し



洗濯機はまだありました

ヤマト運輸配送センター

た、11月に見た不法投棄の洗濯機(マンションの敷地内) ですが、まだ置かれていました。その後、12月に見に行 ったときにも、そのままでした。

次の写真は神崎川堤防近く、ヤマト運輸の配送センターのフェンス外側に壊れた三角コーン(駐車禁止)が破片になって散らばっていたのを発見、これは事業系ごみなので事業課へ報告したところ、道路課がヤマト運輸に片付けるよう注意した後、撤去されました。12月に見に行ったときにはなくなっていました。

河川敷で原田先生にプラスチックに関するお話を伺う



海外の先進事例を聞く

「レジ袋は海岸にはなく、海底に沈んでいます。海に流されると表面に微生物がついてバイオフィルムになり沈んでしまいます。」「ポイ捨てをなくすにはどうすればよいか?日本ではレジ袋が有料ですが、アメリカや中国など禁止になっている国もあります。フィンランドのスーパーの回収機は缶、びん、ペットボトルを一緒に出せて1本につき30円が帰ってきます。ごみが落ちていたらみんな拾うという、お金で解決できるしくみです。」

すいた市民環境会議の小田会長の橋の解説

「大吹橋(おおふきばし)は JR 京都線と並んでいる橋で、吹田市と 大阪市淀川区を結んでいる橋ですが、夏至の頃3日間くらい、太陽はま っすぐ神崎川下流を沈むので、この橋からとてもきれいな夕日を見るこ とができます(19:10頃)。」

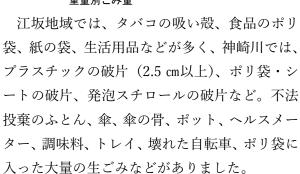


小田会長

集まったごみ

	江坂	神崎川	小計
可燃ごみ	4.8kg	12.9kg	17.7kg
不燃ごみ	1.8kg	16.1kg	17.9kg
計	6.6kg	29.0kg	35.6kg





【原田先生の講評】

「これだけのごみが集まったということは、これだけのものが海に流れなくて済んだと考えられます。不法投棄の問題は難しいものがあるが、こういう活動をしていることをたくさんの人に知ってもらうことは重要です。今回、ごみを拾ったところは神崎川という場所だったが、いろんな場所でつながりや広がりができていったらいいと思います。大阪万博までに淀川をもう少しきれいにしようという動きがあります。機会があったら皆さん、参加してください。



① 生ごみ、トレイ、調味料など



② ふとん



計量します



えがたくさん

神崎川プラごみゼロ	アクシ	ョン ル	ごみ調査カード集計 2023.11.	23			
飲料・食料品の容器包装	(個数)		飲食以外の容器包装	(個数)			
	神崎川	江坂		神崎川	江坂		
飲料ペット	4	9	買い物レジ袋	2	2		
飲料びん	5	2	ポリ袋(レジ袋、食品用以外)	16	6		
飲料缶	13	1	紙の袋	12	22		
飲料紙パック	3	1	プラのふた・キャップ	0	5		
食品の発泡スチロール容器	26	3	at a	30	35		
食品のプラ容器(弁当、トレイ)	38	9					
食品のポリ袋(菓子袋など)	58	78	生活用品				
飲料ペットのキャップ	2	3	おもちゃ	0	1		
その他のプラふた・キャップ	1	4	電池	1	7		
飲料ビンの金属キャップ	2	3	ひも・ロープ※1mを1として	1	3		
ストロー(マドラー含む)	0	2	その他の生活用品	16	44		
at a	152	115	at	18	55		
タバコ			レジャー・スポーツ				
タバコのすいがら・フィルター	150	560	シート	1	0		
タバコのパッケージ・包装	4	17	ボール(ゴルフボール 2 含む)	3	0		
使い捨てライター	0	3					
##	154	580	その他(数のみ)	69	23		
破片・かけら(2.5cm以上のみ)							
硬いプラスチック破片	15	18	発泡スチロールの破片	15	2		
ポリ袋・シートの破片	57	33	ガラスやせとものの破片	13	10		
ā†	72	51	ā†	28	12		
特に気になったごみ・危険なごみ							
神崎川			江坂				
紙ごみ14 つまようじ1 養生テープ 新聞紙			1円硬貨2 おにぎり 洗濯機 ゴム手袋				
ガムのかす 自転車サドル 大量	輪ゴム フライドポテト ビニ	論ゴム フライドポテト ビニールテープ					
壊れた蛍光灯 段ボール箱 カーペット 缶			ストラップ 金属片 溝の底に	ストラップ 金属片 溝の底に大量の吸い殻			
ふとん			ヤマト配送センターの三角コー	ヤマト配送センターの三角コーン朽ちたまま			
			放置 コンテナに入った置き去	放置 コンテナに入った置き去りごみ			

個数別ごみ量



③ ペンキの缶に入ったセメント

リヤカーで運べるものは運んだが、不法投棄の①~③の重たい物や量が多すぎて運べない物は残しておき、事業課に大体の位置を知らせて、道路室の維持管理課が処分しました。これらも 12 月に見に行くとなくなっていました。

今回は集めたごみの収集を事業課 に依頼しました。集積場所までリヤ カーで運びました。

「楽しかった。来年もあったらいいな」「先生の話が勉強になった」という感想がありました。



自転車もリヤカーで運びます



川面下水処理場まで運びました (水川 晶子記)

川島和義

前回は、枚方市が清掃工場建設工事の見積りで最安値と2番目に安値の業者を「ダンピング」の疑いで除外し、技術評価の低い業者を選定したので、その決定を撤回させるところまでの概略を書いた。 市がおかしな決定をした舞台裏にも少し触れたが、「百条委員会」の調査報告書の話を続けよう。

<「おかしな決定」の舞台裏(続き)>

調査報告書によると、請負業者を決めた6月21日には午前10時半ごろ、午後3時ごろ、午後5時ごろの3回、関係者の会議が開かれたとされている。関係者は、市長、助役2名、理事、契約担当の部長と次長、衛生部長と参事兼次長(大阪市からの派遣の方ではない)の8名で、1回目は理事が欠席、3回目にはI助役が来客のため出席しなかったとされている。

3回目の会議の途中、I助役を呼びに行っても来ないので、最終的には衛生部の2名が助役室に行き、衛生部の責任でKu社に決めることで合意し、I助役も参加して会議決定になったとされている。

衛生部内では各社の技術評価の比較表も作成され、Ku社の評価が低かったことも共有されていた。 そのことは上部にも報告されていたはずだが、認識が共有されず、前述の会議でも議論されていなかったようだ。

入札参加者が決まる前に開かれた異例の会議でI助役が「今回のプラントについては非常に安い価格で競争してくるというニュースが入っている。現場からは安かろう悪かろうでは困るということも聞くのでどうしたもんか」と言って始めたことは、前回に書いた。I助役には有力議員からの話があったのではと疑われる。工事が「悪かろう」にならないように発注仕様書で工事内容の詳細を決めておくのは普通のことだが、このことは、会議出席者の頭には思い浮かばなかったのだろうか。

技術評価の話は、議会に報告することが予定されていなかったので、騒ぎがなかったらそのまま高額で承認されていたのかも知れず、(確信はないが)私のとった行動が役立ったのではないかと思いたいところだ。それにしても今、調査報告書を読み返してみて、考え抜かれた I 助役の対応に驚く。

<事態の収拾>

仕事が停まってから半年後に決まった市の収め方は、ストーカ炉6社で競争入札を行うというものだった。入札の結果は1社が辞退、4社は前回と同額の金額、Ku社だけが1,655,000千円を「出精値引」と称して値下げし、3,495,000千円で落札するとの結果になった。Ku社は、契約保証人をストーカ炉メーカーの他社に断られて流動床炉メーカーE社にしたので、保証できるのかとの疑義も出たが、最終的には議会承認された。

おもしろくない結末だった。私は酒でも飲もうかと思い帰宅すると、あいにく(?…というと言うとファンに叱られそうだが)21年ぶりに阪神が優勝した日だったので、祝勝のためにカミさんが飲んでしまって「酒は無い! | と言われたのを覚えている。

職員は不満ながら仕事を再開したが、多くの問題を抱えることになる。まず、設計図面を精査すると、水回りの位置が階によってバラバラの状態などで、とても承認できるものではない。設計変更が求められた。担当技術職員らは設計計算書にも目を凝らして読み込み、誤りを見つけて修正させた。

そんな状況が続き、工期がどんどん遅れ、国の補助金(年度ごとに内示される。大阪府が窓口)分の工事ができないことになり、工期変更を申請しなければならなくなったが、上司からはしばらく「大阪府には内緒にしろ」と指示された。また、N次長が私を府に行かせないようにしたと係長が漏らしてくれたが、それでは補助金の仕事が進まず、すぐに府に行き来するようになった。

私はこっそりと府担当者に状況を説明していたので、年度末になってようやく公式に説明に行った

おり「そんなことは既に分かっていたはずだ。もっと早く知らせてもらわないと困る。」との府のお 叱り(のポーズ)に、謝罪する市の幹部の姿は滑稽だった。

工事価格が安価になったのは良いが、国の補助金対象部分の工事費用が低くなり過ぎて補助金が減額されることがないように苦慮したと記憶している。

市の助役辞任はやむなしの感があるが、有能な I 助役の辞任は惜しい気もする。責任を押し付けられた中間管理職が処分されたことは、気の毒だった。

Ku社も対応に苦慮したようだが、それなりの人材を確保する等の努力したようで、その後に大きな清掃工場も受注できていたが、新設工事が減少する中で現在は当該部門から撤退している。

<その後の私の処遇>

着工の翌年、私の人事異動がどうなるか心配だったが、そのまま工事担当課に在籍が許された。この事件で処分を受けた部長からは、事態が収集されたとき「苦労をかけて済まなかった」などのねぎらいの言葉をかけられたりしたし、課長以下の多くの上司や同僚とは仲良く仕事を続けた。

ところが、工事の終盤・完了検査の前に他部署(公園緑地課)に異動の辞令が出た。当時は、完了検査でいくつか不合格箇所があっても後で手直しすることを約束させて合格させることが普通にあり、私はそのことまで問題にする気はなかった。しかし、私のように「何をするのか分からない危険な人物」を担当職場に置いておけなかったのかも知れない。1988年1月(市長選に影響された異動月)のことだった。その後6年くらい公園管理の仕事をしていた。

N次長が私を仕事から外そうとしたことは前述したが、その後もN次長とは不仲で、ずっと後のこと、N次長が人事担当の部長になり、私を絶対に昇進させないと言っていたとの話が漏れ聞こえてくるような関係になっていた。Nさんは、私が事前に「警告」のようなことをしていたのを知らず、いきなり「内部告発」をしたように誤解していたのかも知れない。ごみの職場の人から清掃の仕事に戻らないかとの話もあったが、「私は構わないけれども、Nさんが居る間は無理だろう。」と応えていた。

Nさんが衛生部を離れ、公園職場で上司だった人がごみ減量計画の職場に異動して私を引っ張った (らしい)ので、1994年にごみ屋に戻り、廃棄物減量等推進審議会の事務局を担当した。

東部への国道のバイパス建設が決まり、東部清掃工場の立地条件が整ったので、1998年に東部整備部に異動し、次期の清掃工場建設の準備を担当することになる。

1985年の清掃工場建設の際、既存工場周辺の地元自治会合意を得るため次の清掃工場は「H地区」にするとの約束文書が出されていた。当時の工場で課長をしていた人の判断だったのだろうが、H地区に話もしないで地域名まで明記するのは権限を超えているだろう。せめて「他の地区」というくらいの表現に留めるべきものだと思ったが、市の内部ではチェックされなかったようだ。

このことは、当然H地区では問題にされたが、当時の市の担当者間では経過が共有されておらず、 (市はこの約束を明確にしないまま)、全市域からまとまった空地をリストアップし、それぞれの立 地条件を評価して候補地を絞り込む形で既に作成されていた評価書を基に地元説得に当たった。

最終的には環境影響評価の手続きを経て、都市計画決定の手法で清掃工場用地の場所を確定した。 枚方市の都市計画審議会での審議・決定を経て、大阪府の都市計画審議会で決定されたのである。地 元のH地区の住民は意見を述べる機会が与えられているが、市の広い地域の意向が小地域の意見を押 し潰したように見えるかも知れない。この手法の是非は、議論の分かれるところだろう。

東部の清掃工場の建設をめぐっても別の焼却方式等が議論になるが、この話は気が向けば、機会を 改めて書くことにする。余談だが、Nさんのおかげ(?)で煩わしい管理職の仕事を免れていた私は、 Nさんが退職したせいか、定年退職時には課長補佐(当時の名称は課長代理かも)にされていた。

ボランティア活動での小さな気づき

阪野 修

① 住吉区社会福祉協議会が私をゲストスピーカーとするセミナーを主催した。新しくボランティア活動をはじめた人々を主な対象とする17名の小さなセミナーの報告です。

表題を「ボランティア活動での小さな気づき」とし、あえて「大きな気づき」とすると自己満足の域を超えないので「小さな気づき」としたが、すごく話しやすく参加者全員の発言も聴くことが出来た。このセミナーでの「小さな気づき」は、庶民の目線に立てた時は大きな効果があると実感できたことです。

「一人ひとりの「エエトコ」に注目する」と結論から始めた。私は、ニュータウンを基盤とするこだわり派生協(泉北生協)と被差別部落を基盤とする町内会型生協(住吉生協)という性格の違う2つの生協で働き、最後に2つの生協の合併を実現(現エスコープ大阪)した。両者は「理念から」理解し合うことは無理で、生協組合員同士の信頼関係の積み上げに時間を掛けていた。

そして、一つのエエトコを発見した。当時の住吉では、高齢者向け昼食サービス(同和対策)は 実施されていたが、当然ながら「毎日せよ」「配食も」との要求と「予算がない」の綱引きが始まっ た。その時、保育所の調理人に注目した。同和対策で人生初めての就職し、赤ちゃん向けの調理を 専門家して担っていた。定年退職が近づいていたこの人たちこそが「配食サービス事業の中核部隊」 として位置付け議論を重ねた。男性や近所の人も巻き込み、事業の基本的財源は「働く人が出資す る」(=昨年法制化された労働者協同組合法の先取り)を実現した。食事代や給料もみんなで決めス タート。びっくりした。利用者は増え、配食のボランティアも多数、何よりも調理を担う人々は生 き生きと。

② 阪神大震災(1995年)と東北大震災(2011年)

16年間でボランティア活動への社会的評価が前進していると実感した。被災地でカメラを向けると、『撮るな!』が『どんどん撮ってや』に代わっていた。6月には気仙沼市で被災した障碍者団体の代表を招き「大阪からどんな支援を期待しますか」と尋ねると、即座に「お笑いです」と答えられ、びっくりした。被災地の人々は震災直後から「笑い」は消えていた。が、大阪からの若手落語家が被災者の前で演じた時、みんなは大笑いしながら大泣きになり、「私らも笑ってもエエのやね」とうなずき合い「生きる力をもらった」と。

ここから、大阪からの東北支援活動を継続させるヒントをもらった。「今出来ることを続ける」ことの大切さと柔軟に「ソフトボランティア隊」を組織で来た。そして、今も気仙沼の人々との付き合いは継続中。

③ 牛乳パック回収運動(1990年代)

環境生協(滋賀県)みんなの労働文化センター(尼崎市)住吉生協が中核部隊となり、製紙会社とも取引を行い牛乳パック回収運動のネットワークが形成された。再生され「たただいまロール」「おかえりティシュ」の販売協力も行ない、活動に伴うお金も活動現場に流れ、障がい者と生協組合員が一緒に汗を流す風景が広がろうとしていた。

が、仲間だと思っていた人々から「本来牛乳の流通は瓶。パックは牛乳メーカーの大量生産、大量流通の結果。パック回収は牛乳メーカーの責任。市民運動は何もするな」と批判が飛んできた。書籍「間違いだらけの環境運動」で話題となり、両者の直接的な対決が京都大学で開催され、私も回収派のプレゼンを行ったことを思い出す。パック回収の実績を数字で報告し、関わる多様な人々の想いを述べた。環境運動と言う一つの視点だけで語るのではなく地域福祉運動などにも繋がっていることを評価すれば、異なる多様な運動をも巻き込み得たのではと考えると、残念な論争だった。

④ 子ども食堂

住吉区で第1号を開設し、増える子ども食堂に呼掛け連絡会も設立した。我が子ども食堂は、今年5月に拠点場所を失なったことと運営者の高齢化により閉所せざる得なくなったが、7年間の実績で多くのことをまなび得た。

準備段階で先進事例を学ぶために講演会に参加したが、あまりにも精力的な報告に「そこまででけへン」とドン引きになった。休憩時間に講師のつぶやき「食事提供だけなら誰にもできますよ」に飛びついた。豊富な活動経験者は、理念高く語る傾向にあるが、ボランティア活動、市民運動では「間口広く、ハードル低く、奥行き深く」の姿勢で新規参入者を迎えたい。

地域での人脈が乏しいため区役所、社協、小学校、町内会などへの挨拶廻りを重視し、私たちのことを知ってもらうことから始め、ボランティアさんが安定したことに繋がった。当初は、「子ども食堂=貧困家庭の子ども対象」と放送するマスコミの影響もあったが、徐々に参加者も増え居場所としての価値が高まり、子ども食堂は全国的に急増(約7000)中間的支援センターも充実してきている。全国的な盛り上がりには、社会活動家・湯浅誠氏の功績がある。彼は小学生の時、友人たちとの草野球に障がいを持つ兄と共に参加していた。この時、友人も兄も納得する特別ルールを編み出していた。「人それぞれに違って当たり前」を前提に「対等の関係を築く術」を示唆している。子ども食堂での学習支援活動を巡って「必至条件」か「可能な所は」に意見が対立した時、「どちらも子ども食堂」と言う彼の見解は多くの関係者を納得させた。

子ども食堂のエエトコは、人それぞれに語りそのすべてに納得。特に「違いを承認しあう運動体」であり、違ったコミュニティとの繋がりに活かされている数少ない運動体である。

⑤ 社協の位置、評価

会場からの発言で、このようなセミナーを主催する大阪市の社協と他市の社協との違いを指摘する発言があった。その要因は、福祉の社会化(民営化)へ移行する時の各市の政策の反映である。2000年頃まで、市の事業である福祉の実働部隊(ヘルパーさん)を社協で雇用していたが、「民間の介護事業所の参入を促進、社協は中間支援センターに」の市と、「社協自らが新しい福祉事業所」となり新規参入の民間業者と競合した市が出現したと聞く。前者は政令都市など大きな市と思われるが、社協関係者からの報告を待ちたい。

この句を、この正月にどこかで見ました。この句に共感された人は、少なからずいたのではないかと思います。

昨年、私は「カデシュの戦い」を知りました。今から3300年前の、エジプトとヒッタイト両軍合わせて3万6千人の歩兵が繰り広げた戦争です。戦争後、両国は和平を結び、相互不可侵などの調印をしました。有史初の記録された戦争、そして史上初の平和条約といわれます。昔の壮挙です。

それに比べて、現代の戦争の継続・・私自身の無行動を責めつつ、言葉を失うばかりです。 私は戦後の社会主義運動の盛んな時代に、学生時代をおくりました。40歳近くになってようやく、非暴力主義と出会い、その使徒となりました。私は頭から入って行く単純タイプの人間です。周りに誰も、そのような考えをする人はおらず、ただ一人でした。

周囲を見回して、一人おられました。全国水平社の創立者の一人、西光万吉です。はじめはそうとは知らず、西光万吉が非暴力主義者であったら良いなあと、私は戌年なので、匂いをかいで証拠調べをしました(笑)。そうでした。戦前から非暴力主義と格闘し、戦後は非暴力による平和的貢献政策を創案し、戦後25年を駆け抜けました。

最近、驚くべきことが生じています。NHK が非暴力主義の宣伝の番組をいくつも放映していることです。「映像の世紀」でガンディーの活動を詳しく紹介したり、アメリカの平和学者のジーン・シャープを NHK 教育番組「100分 de 名著」で、4回にわたって「独裁体制から民主主義へ」で紹介しました。それには、アメリカのキング牧師らの黒人解放運動、ミャンマーのスーチーさんの活動、殺されるのを覚悟して帰国したフィリピンのアキノさん、また、東ヨーロッパのセルビアの革命、リトアニアの独立回復運動等々、非暴力による革命をつぶさに分析しています。世の中の改革は、非暴力の道しかない、なんと NHK が教えてくれる時代となりました。嬉しいことです。

個人と個人の間でも、さかんに相手の非をならしていて、まとまった話は聞いたことはありません。夫婦げんかの時、私は「私はもう話さないよ」と一方的にやめます。冷静になれば、相手の言い分も受け入れる時間を持つことが出来ます。

私は暴力は差別と支配の起源であると思います。その社会悪を正すのに、暴力を使えば、 また新しい支配と差別がつくられます。暴力の連鎖が続くだけです。

私の昔の上司は人生の達人で、喧嘩する人たちを見て、「(喧嘩で双方が)疲れ果てたら、 止めるやろ」と言っていました。しかし、戦争では、夫も父も戦死したら戻ってきません。 爆撃された家も仕事場もすべて失ってしまいます。核戦争が勃発したら、何をかいわんや、 です。

この地球上で、絶望の中、死地を彷徨っているたくさんの人々がいる。無条件に即時停戦を願っている人が多いのではと思います。日本のように静かに政治的介入を期待されている 国もあり、音頭をとることを期待されている世界的な宗教団体もあります。街頭で静かに黙礼をすることもできます。

新春のコラムで、戦争のことを書くのは気が重たいです。しかし、書かねばならないと思って書きました。固すぎる話ですみません。